



熊本市PTA協議会
 会長 森 徳和
 編集責任者 山形 継司
 発行所 熊本市PTA協議会
 熊本市草葉町5-1
 TEL 356-1122
 FAX 351-2309
 メールアドレス
 info@pta.kumamoto-net.ne.jp
 印刷：太陽社
 TEL 366-1251

熊本市PTA研究大会開催

PTAと地域 手を携えて よりよい未来へ

平成二十年十一月二十九日、熊本保健科学大学にて、今年も熊本市PTA研究大会が開催。七九二名の会員の参加で盛大な中にも真摯な討論が続けられた。

基調講演は、熊本市教育委員会教育アドバイザーの城重幸先生をお迎えし、「これからの教育と保護者のあり方」とい

う演題でお話を頂きました。先生作詞の曲で和やかに始まり、「生きる」と「考える」をキーワードに、いくつかの

象形文字を例にとりて親教師、子どものあるべき関係について説明をされました。先生は「現在の子どもたちには、いろいろ

大山名人

熊本市PTA協議会会長 森 徳和

ある時、講演した大山名人は、「お客さんは何人でしたか」と人数を言い当てたそうです。客席は将棋盤と同じマス目なので、一目で分かったそうです。名人ともなると、私たち凡

は、自分の子どもの姿を毎日見て生活しているからです。しかし、毎日将棋盤を見て先の手を読んでいる棋士のように、子どもの心まで見抜く能力があるかといえば、自信はありません。

初めからプロである人ではなく、誰でも最初はアマチュアに過ぎません。子どもを持つ親は、子育ての「玄人」プロになるという心構えを持ち、どのような場面でも対応出来る力を身につける必要があるようです。



この講演は、環境が激しく変化する現代の社会において、子どもを育てる親にとって示唆に富んだお話で、考えさせられる時間となりました。時間の関係でいくつかのお

話がカットされたのは残念ですが、先生の実体験の話もあり、最後には先生の歌の披露もあり、楽しい時間を過ごすことが出来ました。
 (北部東小学校 山本幸広)

熊本市PTA研究大会を終えて

平成20年度教養委員長 田中 國稔

本年度の研究大会は、11月29日に保健科学大学にて、「PTAと地域手を携えて よりよい未来へ」を大会主題に、PTA会員792名に参加いただき、基調講演のあとPTAが抱える実践的な問題などをテーマに、4分科会に分かれたの勉強会を行いました。

今回の研究大会はこれからの教育のあり方を見据えて、子どもたちを健全に育てるための親のあり方、学校、地域との関



21世紀にはいつて人の脳の働きが

地域、家庭、学校が連携を図る「かけ橋」となり、それぞれの役割を果たし、それぞれが持つ教育力が発揮できればと思います。皆様のご協力に感謝申し上げます。

来てきました。その中で男性と女性の脳の働きが若干違う事もわかってきました。先日NHKスペースワールドでアメリカでの教育分野で、男子クラス・女子クラス別々に教育する試みが紹介されていました。興味深かったのは男の子はリーダーに従い行動することを好み、考えかたも一つに限定されることを好むそうです。そのため男子クラスでは、先生は比較的命令口調で授業を進め、数学などの解き方についてもひとつの考え方を示すにとどめます。反対に女の子は競争することを嫌い、たくさん考える方から自分にあつたひとつを選ぶことを好むため、先生はお姉さんのような口調で授業をすすめる、問題の解き方もいくつかの例を挙げていきます。また、女の子

特有なのは2、3人の友達同士で考えることを好むことです。ジェンダーフリーの昨今、こんなことを聞いたら眉をひそめる人がいるかもしれません。ただ、申し上げたいのは今、学校で大きな課題になっている特別支援教育の発達障がいの子ども達も、この脳の受け止め方、感じ方、考え方の働きが違うために起こる障がいです。その子が理解できないければ説明の仕方、言い方、言葉の使い方を工夫しなければなりません。まさに脳の働きの解明により明らかになってきたことです。

PTAはボランティア・子ども・学校等を通して会員相互が学習する社会教育団体です。そして最終的にはそのことをわが子の子育てに生かしていかなければならないと思っています。我が家には一人の娘と二人の息子がいます。子どもを理解する姿勢をもう一度考え直してみようと思います。

市PTA副会長 木村 照一

【第一分科会】 「地域と教育」 今こそ子どもたちが危ない！親の責任、学校、地域の役割

真宗大谷派浄慶寺住職 豊岡 光蘭

今の子供も達は大事にされすぎて、粘りが不足している。家族の一員として責任を担い、役割を果たすことが大切だ。また、コミュニケーション不足ともいえる。親が一方的に言うだけで、向き合っていない。そういうことが今の子ども達に影響を及ぼしている。大人がどう生きるのか、地域がどうあって、どうすすんでいくのか、それが子ども達を育てるために大切なことだ。

私達は、縁あって親をさせてもらっている。父親は、使命を發揮してほしい。「これだけは狂わせてはならん。」というところが出番である。父親が輝いてこそ子どもも輝いていく。母親は、反抗されても反抗されても、なお包みこんでほしい。その優しさに子どもが育っていく。



【第三分科会】 PTA活動 PTAのあり方

第三分科会は、『PTA活動 PTAのあり方』をテーマに、ワークショップの形で開催され、事前に調査されたPTA活動についてのアンケート結果を基に、活発な意見交換がなされた。

参加者約百名は、P会員・T会員混合の十グループに分かれ、それぞれのグループにて討論その後、発表が行われた。初めは、緊張気味で静かだった会場も、司会中尾貴俊（市P総務委員長）・アドバイザー 鬼木顕正（市P副会長）の進行により、次第に熱気を帯び、時間が足りなくなるほどであった。



（芳野中学校 原口昭美）

【第一分科会】 「実践！校区マップ」

子ども達をとりまく環境が年々悪化する中、安全防犯をテーマに各学区でもPTAを中心に校区マップを制作されています。制作に特に効果を挙げ

ている帯山小学校の発表が行われました。帯山小学校の取り組みは、六年生が授業の一環として自分たちの足で校区を回り調査します。そ

持ってもらえるよう、楽しい行事を行う。選考委員は、年度前半に執行部とともに活動し、選挙活動に生かしている。講演会・セミナー・研修会等の案内が、執行部にとどまることなくPTA会員全員に周知されているなど、さまざまな意見や単Pの活動が発表された。中でも、注目を集めたのは、託麻西小学校PTAの取り組み。一人一役で、第一希望のみで決める。自分がやりた

の後、手作りのマップを制作し、校内や自治会の方々に招待して発表会が開かれます。質問や意見をいただき考える事で、地域全体の防犯意識が広まります。

この取り組みでは、子ども達が制作することによって

- 一、被害防止能力の向上
- 二、コミュニケーション能力の向上
- 三、地域への愛着心の向上
- 四、非行防止能力の向上
- 五、大人の防犯意識の向上が期待できるといふことです。

また、熊本県の無料の地図作成ソフトウェアで、「くまもとGPMAP」からのマップ作り等の紹介が行われました。各単Pとも、色々な工夫を凝らしてマップ制作に取り組みられています。生活環境を知る事ができ、活用できる効果的な校区マップの制作が必要だと思われました。

（白坪小学校 伊藤留美）

【第四分科会】 インクルージョンを目指して

〜みんなが違って、みんないい〜

障がいのある幼児児童生徒の支援をさらに充実するために、すべての学校で特別支援教育が始まりました。決して特別な事ではなく、誤解をなくし、正しい理解をし、どう子育てをすればいいかという事を考える機会として：を主題に始まりました。

最初にパネリストのお話があり、子どもさんが発達障がいや、接し方や育て方などを丁寧に教えて下さいました。障がいも個性という言葉が印象に残りました。

パネリストは矢野美枝さん（NPO法人さくら会の代表）、福島貴志さん（NPO法人IOBスポーツ理事長）、川津さとみさん（城北小

学校市P担）、高木徳文さん（熊本市P副会長）、コディネーターに山形継司さん（市P広報委員長）でした。

軽度の発達障がいとは、LD（学習障がい）、ADHD（注意欠陥多動性障がい）、高機能自閉症・アスペルガー症候群等の

色々なメディアの中で情報を与えられ、それに応じた対応はできるようになるが、想像力は乏しくなっている。想像力を高めるために本を読みましよう。本は前頭葉を刺激し、脳を活性化させる。そして創造する力を育てる。しかし、ただ読ませるのではなく、私たちが子どもに読んであげましょう。そうすることにより、子どもと深く関わり、子どもの感情も豊かになってくる。



また、昔の人は、話の中にいくつもの教訓を盛り込み、それを語り継いできたのに、現代では家庭でもそのような話をする場がない。子どもたち

科会参加者からも、参考になったという感想が寄せられた。（出水南小学校 田中正代）

総称。発達障がいのある子どもは、障がいによる困難を抱えています。優れた能力を發揮する場面もあるそうです。出来る限り早期から適切な支援を受ける事によって状態が改善する事も期待されるそうです。

インクルージョンとは、子どもは一人ひとり違うのが当たり前であり、その中に障がいのある子がいて当たり前という事を前提として、子ども一人ひとりの違いを認め、個性の二つズに対応し、全てを包み込む学校・学級・社会が望ましいという考え方であり、その方法です。熊本市教育委員会では特別支援教育コーディネーターの先生を中心に、校内研修やブロック研修を積み重ね、先生方のスキルアップに取り組みされているそうです。

（日吉中学校 碓子さゆり）

今回の講話において、多くの方が「家に帰ったら子どもに本を読んであげようかな。」と考えられたのではないかと思います。本を読んであげることにより、もっと子どもとのふれあいを大切にし、子どもの感情を豊かにしてあげる。これが今の私たちに簡単に出来るもっとも手早く、必要なことだと思えます。テレビを見たり、ゲームをする時間があれば、1時間でも子どもと一緒に本を読んで見ませんか。

（西里小学校 森山知美）

ブロック研修会

東部A

感動をありがとう 「ベルギーで学んだこと」 ベルギー体験記

健軍東小教頭
村上恵美子先生



1月18日(日)、時折小雨のばらつく生憎の天気の中、百人を超す聴衆に埋められた東部A地区研修会会場。講師は壇上に上がり聴衆と同じ目線に立って一人ひとりに語りかけるスタイルでユーモアたっぷり異国文化や生活習慣を紹介され、会場の聴衆は時の経つのを忘れてしまった。

現在、健軍東小の教頭を務める村上恵美子先生は、碩台小在職中にベルギーのブラッセル日本人学校へ3年間勤務したことがある。今回の講演は、そんな異国での貴重な体験を思い出し写真とともに紹介するものであった。

地区	テーマ形式
東部A 1月18日	感動をありがとう「ベルギーで学んだこと」
東部B 7月6日	パネルディスカッション 発達障がいの子どもの関わり方
西部 10月25日	子どもが生まれた時に考えるお金の話
南部 10月18日	第1分科会「このとりのゆりかご」が問いかける命の尊さ 第2分科会「子どもの心の動きや子育てについて」 第3分科会「夢を持って生きる」
北部A 12月14日	「心を育てるいのちあることば」
北部B 1月24日	「日本型食生活の復権～一汁三菜ここにあり!!」

今年度の東部Bの研修会は特別支援教育の知的障がいや発達障がいの子どもとの関わり方についてシンポジウムを行いました。コーディネーターは市常任理事の山形継司

東部B

さん。パネリストには、発達障がいの子どもを支援するNPO法人「さくら」の代表の矢野美枝さん、現在熊本市と八代市の教育委員会で支援体制についてアドバイザ



の4国に開かれたベルギー。公用語はフランス語とオランダ語だが、隣国と地続きである事から公用語の他にドイツ語と英語を話せぬとベルギーでは大きな仕事につき事が難しいようだ。そんな自国の事情から多くの子どもたちは夏になると普段使う言語以外を学ぶ為に居住地を離れ、オランダ語を主とする北部地域やフランス語を主とする南部地域などへホームステイを行い、将来に向けての努力を幼少の頃から行っているそうだ。

とがある。「どんな人へも必ず挨拶をする」という事だ。至極当然の事と思われらるうが、ベルギーで挨拶を交わす事は「危機管理の一つ」となっているのだ。

西部

思いがひしひしと伝わる講演であった。人間、一生のうちには巡りあえるのだからか。どんな小さな事へも感動出来る感性や感謝する気持ち、私たちが大人は心に持ち続けなければならぬ。そして伸びやかな感性と心をもてる環境を、子どもたちの為に整える事が私たちの責務なのだと改めて感じさせられた。

西部地区研修会では、10月25日(土)、NPO法人ライフ&キャリア教育サポート理事長の広瀬美貴子氏をお迎えして「子どもが生まれたときに考えるお金の話」の講演が行われました。

挨拶とは人と人との交流の第一歩。そして多くの人との繋がりを実感できるものであり心とむものである。知り合いもななく心細い異国の地で挨拶を交わす事で心が癒され、孤独感はなくなり、自然と勇気が湧いてきたと当時の心境を語った村山先生は、健軍東小に務める今も、子どもたちに「声かけ・挨拶」を欠かす事が無いようである。

「砂取小学校 寺岡豊晶」

南部

資金・保険」の一つである教育費を長期的な視点でプランニングする事を提案され、具体的に子ども達の成長に伴う教育費や奨学金の現状と知識などを分かりやすくお話いただきました。

また、子どもの金銭感覚と職業観を育てるためにも子ども自身に選択させ、責任を学ばせる事の重要性や親子のコミュニケーションの大切さを訴えられました。

現実的なお話に参加者も多く、みなさんはとても熱心に聞き入っていました。

10月18日(土)、南部地区研修大会が白川中で行われました。第一分科会は慈恵病院・看護部長

北部B

「日本の食生活の復権」一汁三菜ここにあり!!」と一見堅そうなタイトルでしたが、今回の講師は、藤園中・栄養教諭の宮崎先生。先生は藤園中の生徒たちに向けて、他中学校でも授業をされている、熊本の栄養教諭の先駆的存在の方です。

先生からは、朝食の大切さや、愛情をかけた料理は子どもたちにきちんと伝わる!などの話を、おもしろいエピソードを交えて、お話しいただきました。30分程度の講義に

続き、待ちに待った調理実習!!参加者28名の中には2名のお父さんの姿も。作るものは、赤米入りのごはん・サバのゆず味噌煮・小袖だご汁・大根のきんぴら・ブロッコリーと小松菜の温野菜・アップルケーキと豪華なものでした。わいわいがやがや言いながら、4班に分かれての作業は、とても楽しく、久々に学生時代に戻ったように、みなさん楽しみなが、それだけで、手際よく調理をされていました。あ、お父さん方も。出来あがった一汁三菜は、どれもとてもおいしく、みなさんおなかも頭も大満足。の北B研修会だったようです。

先生は藤園調理場の栄養士もされているのですが、出し汁で使ったりりこや昆布で、佃煮を作り生徒たちに出していらっしやるそうです。この日も当然の事ながら、使ったりりこや昆布、日頃は捨てているであろう椎茸の軸も使い、佃煮を作りました。



「ゴミの減量」についても学んだ北B研修会でした。(藤園中学校 荒尾 信)



月9日、子どもを中心
に据え、地域・卒業生・
旧職員そしてPTAの
皆さんの参列のもと、記
念式典を開催した。子ど
もと職員が一丸となり、
この一年頑張ってきた成
果を卒業生に公開した。
百年目の自分たちの姿を
見てもらおうと、児童
会が決めたテーマは「百
周年えがお満開白川小」。



白川小学
校は、明治
42年創立
で本年度が
百年目に当
たる。11

**白川小学校
百年
えがお満開
白川小**



創立当時よりの校訓
「勇気・協同・礼讓」が
受け継がれ、地域ととも
に築き上げられてきた歴
史と伝統を持つ白川小学
校が今年度、創立百周年
を迎えました。

立ち止まっていたのあいさつ
と、えがおがいっぱいの
子ども達の姿が東京から
参加された卒業生にも感
動を与えることができた。
昭和11年に建設され
た鉄筋校舎は、熊本市で
もっとも古い校舎である
が、校庭の大えのきとと
もに卒業生の共通の「心
のふるさと」でもある。
これからの卒業生にも「心
のふるさと」と呼んでも
らえる学校づくりに新た
なスタートを切りたい。
(熊本市立白川小学校
校長 織田幹夫)

行われ、多くの同窓生
を迎え盛会裡に幕を閉
じました。
また、昨年11月30日(日)
に行われた「創立百周
年記念バザー」では、
百周年の「冠」をつけ
て販売を行った「創立
百周年パン」も大好評

附属中学校は、大学
の教員養成研究機関と
しての役割を持っており、
広く生徒を募るため、
学区を持っていません。
そのため、市や県の
PTA組織に属してお
らず、地域のPTA会
員の皆様とかななか交
流ができない状態です。
本校のPTA活動は、
研修・広報・厚生・生活・
情報の委員会で組織され
保護者や親子向けのセ
ミナーの開催や広報誌
の作成、歓送迎会の運
営のほか、大半の生徒
たちが公共交通機関を
利用して通学するため、
定期的な下校指導を行
ったり、ホームページ
の管理運営等を行って
います。さらに、月一
回の役員会では、学校・
PTA執行部・クラス
役員・PTAクラブ長

が参加し、行事やPTA
運営方針等を話し合っ
ています。
また附属幼稚園・小学
校・特別支援学校との四
校園共同で、バザーやス
ポーツ大会などの独自の
交流会を行い、親睦を図
っています。
さらに、本校は国立大
学法人の機関であるため、
九州や全国の附属学校園
のPTAと連携を取り、
定期的な開催されます、
九州や全国の実践活動協
議会等の研修会に参加し
て、各学校園と情報交換
や共通に抱える教育問題
などについて協議してい
ます。
しかし、本校は地域に
根付いた学校でないため、
地域情報の収集等の面で、
不自由する場面がありま
す。その時は、皆様のお
力をお借りする事がある
と思いますのでどうぞ宜
しく願います。
(熊本大学教育学部附属中学校
PTA会長 田尻 亮司)

初めまして
附属中学校は、大学
の教員養成研究機関と
しての役割を持っており、
広く生徒を募るため、
学区を持っていません。
そのため、市や県の
PTA組織に属してお
らず、地域のPTA会
員の皆様とかななか交
流ができない状態です。
本校のPTA活動は、
研修・広報・厚生・生活・
情報の委員会で組織され
保護者や親子向けのセ
ミナーの開催や広報誌
の作成、歓送迎会の運
営のほか、大半の生徒
たちが公共交通機関を
利用して通学するため、
定期的な下校指導を行
ったり、ホームページ
の管理運営等を行って
います。さらに、月一
回の役員会では、学校・
PTA執行部・クラス
役員・PTAクラブ長

が参加し、行事やPTA
運営方針等を話し合っ
ています。
また附属幼稚園・小学
校・特別支援学校との四
校園共同で、バザーやス
ポーツ大会などの独自の
交流会を行い、親睦を図
っています。
さらに、本校は国立大
学法人の機関であるため、
九州や全国の附属学校園
のPTAと連携を取り、
定期的な開催されます、
九州や全国の実践活動協
議会等の研修会に参加し
て、各学校園と情報交換
や共通に抱える教育問題
などについて協議してい
ます。
しかし、本校は地域に
根付いた学校でないため、
地域情報の収集等の面で、
不自由する場面がありま
す。その時は、皆様のお
力をお借りする事がある
と思いますのでどうぞ宜
しく願います。
(熊本大学教育学部附属中学校
PTA会長 田尻 亮司)

が参加し、行事やPTA
運営方針等を話し合っ
ています。
また附属幼稚園・小学
校・特別支援学校との四
校園共同で、バザーやス
ポーツ大会などの独自の
交流会を行い、親睦を図
っています。
さらに、本校は国立大
学法人の機関であるため、
九州や全国の附属学校園
のPTAと連携を取り、
定期的な開催されます、
九州や全国の実践活動協
議会等の研修会に参加し
て、各学校園と情報交換
や共通に抱える教育問題
などについて協議してい
ます。
しかし、本校は地域に
根付いた学校でないため、
地域情報の収集等の面で、
不自由する場面がありま
す。その時は、皆様のお
力をお借りする事がある
と思いますのでどうぞ宜
しく願います。
(熊本大学教育学部附属中学校
PTA会長 田尻 亮司)

市ソフトバレーボール大会

平成21年1月15日の市P常任理事会で、平成21年度の市P親睦行事について、今年度同様ソフトバレーボールとすることが決定しました。次年度は8月1日、1日制で行われます。

●●● 21年度市P親睦行事についての調査結果 ●●●

提出P数 86

調査項目	市P	選手	先生
親睦行事は	①今の種目でよい	77	74
	②他の種目がよい	8	11
開催時期は	7月	23	20
	8月	58	60
期間は	①1日制がよい	78	78
	②2日制がよい	4	2
曜日は	①土曜日	73	74
	②日曜日	8	5
時間帯は	①午前中	58	58
	②午後	22	20
組み合わせは	①ブロック内がよい	72	71
	②全単Pでよい	11	9
賞品は	①あったがよい	38	25
	②なしでよい	46	57
選手構成は	①このままでよい	68	68
	②変えたほうがよい	10	9
チーム構成	①1単P内でよい	48	46
	②合同でもよい	34	34

編集後記

生来の性格で、
締め切りが見
えないとエン
ジンがかから
ないものです
から、広報委
員さんにも常
任理事さんに
も大変ご迷惑をおかけし
ました。深くお詫びします。
これまでの市P協議会
活動の積み重ねを糧として、
二十年度も各ブロック研
修会や市P大会が充実し
て行われました。
企画運営される方々の
真摯な取り組みとご尽力
に頭が下がります。
今号ではそんな各プロッ
クでのホットな活動の報
告を、少しでもお伝えし

- ◆後期編集委員◆
- 寺岡 豊晶・砂取小
 - 田中 正代・出水南小
 - 本郷早利子・錦ヶ丘中
 - 中原 利博・東部中
 - 馬場 良二・月出小
 - 中松 正文・託麻原小
 - 伊藤 留美・白坪小
 - 碓子さゆり・日吉中
 - 井上 茂子・白川小
 - 山本佐江子・城南小
 - 山本 幸広・北部東小
 - 原口 昭美・芳野中
- 熊本市PTA協議会副会長(広報担当)
広報副委員長 木村 照一
山形 継司

20年度
会場ごとの
優勝校

東部A	秋津小	東野中	健軍小
東部B	託麻原小	託麻東小	託麻西小
西部	飽田東小	城西小	飽田中
南部	向山小	御幸小	江原中
北A	楠小	川上小	
北B	慶徳小	井芹中	